

第5投目：朝マズメだけの日



2014.3月某日、日曜日に波が1.5m、しかも西側海域に行けそう…こんな機会はめったにない！というわけで、クラブメンバー5名を含む計9名で渡船に乗り込み古仁屋港を出港しました。前日は北風が若干強めに吹いていたので、波がどのくらい残っているのか？それによっては狙いの磯に渡れません。まだ夜も明けてない暗闇を進む船の中で、波の上下を体で感じながら祈るような思いで海域へと向かいます。

夕離れ周辺に船が着くと北からの波は多少残っていましたが、ちょうど潮が干潮ということもありなんとかなりそうです。クラブメンバー達のはからいで、私は名礁 K 瀬に一人で渡れることになりました。

午前6時頃に撒き餌を開始、辺りは電気ウキを使わなくてもかろうじて釣りができる明るさです。潮の強さと向

きをまだ目で確認できなかったため、どこで釣りを始めて良いのか迷いましたが、ひとまず干潮時にしかできない低場の釣り座でやってみることにしました。釣りを開始して10分、最初は取られなかった餌が徐々に取られだし、イソゴンベを1匹釣った次の1投でした。浅い50cmほどのタナで撒き餌に同調させていた仕掛けがスーッと水中に引き込まれます。その場所で初めて掛けた重量感のある魚、朝マズメに幸先良く45cmのクロをゲットできたのでした。それから15分後…しつこく浅瀬の溝に逃げ込もうとするクロを制して調子良く2匹目です。

ふと東を振り向くと、太陽が加計呂麻島から顔を出し始め、一瞬しかない素晴らしい朝の景色が広がっていました。短時間での連続ヒットに気分を良くした私は、景色の写真を撮る余裕。後から思い出すとこの時の私は、それからの苦戦する一日の始まりを全く想像していませんでした。

針を結び直し再度同じ場所でやってみるも、全くアタリは出ません…潮を見ると上げ潮が徐々に強くなり始めていました。『そうか、そうか…』と場所を変え、引かれ潮に撒き餌をしても確認できる良型の魚はサンノジだけ。そして奴は針の付いたオキアミには絶対に見向きもしません。潮の強弱、湧昇流の出る場所の違い、ムロアジの出るタイミング…全ての変化を好機ととらえ攻めますが、その後はクロの姿を見つけることすらできない時間が過ぎました。気付けば渡船が回収にくる午後2時…朝一に2枚釣ったことなど忘れるくらい悶々とした気持ちで周囲のゴミを拾い、磯を後にした私でした。

